



# 医と食

Clinical and Functional Nutriology

Vol.13 No.3  
Jun.2021

特集

## 機能的表示食品による 健康増進シリーズ2

- 見る力をサポートする目のサプリメント『ロートV5粒』
- 類まれなる多機能素材『5-ALA』

オンライン対談

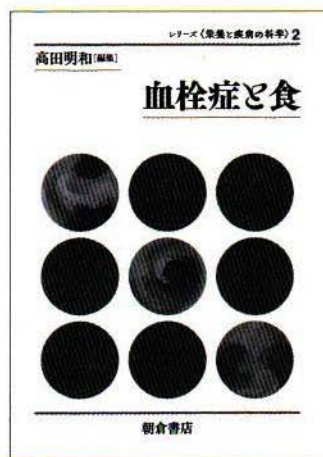
渡邊 昌

×

吉川 敏一

『医と食』の  
これから





DATA

## 血栓症と食

朝倉書店

高田明和編集

- 第1章 血栓症の仕組み
- 第2章 肥満と血栓症
- 第3章 脂質と血栓
- 第4章 腫瘍、深部静脈血栓症
- 第5章 栄養と血栓溶解
- 第6章 周産期の出血と止血(肥満と血栓症)
- 第7章 生活習慣病に伴う動脈硬化のための最新画像診断

この本は「栄養と疾病の科学」シリーズの第2弾として高田明和名誉教授を編集者として出版された。血栓症は血管内を流れている血液が凝固し、血栓になることによって組織や臓器に血流障害を惹起する病気である。その原因は、血管と血液成分が単独に、あるいは相関して生じる異常や、血液の粘性、血流異常など多岐にわたっている。また、その基となる病態として、心臓を中心とした循環器疾患、糖尿病などの内分泌疾患、膠原病などの免疫疾患、最近パンデミック感染症として世界で猛威を振るっているCOVID-19などの新型コロナウイルス感染症などがあげられる。

血栓症は、それを引き起こす基礎疾患の治療が優先されるが、原因を取り除き、発症や増悪、再発の予防に「食」が非常に重要な役割を果たしている。基礎となる病気の予防や治療にも当然、適切な栄養や食品の摂取が必要であるが、そのほかに血管壁や血流に影響を及ぼし、血栓の形成を予防する食品が数多く存在している。また、血液成分のうち血球、特に血小板が血栓形成に深く関与し、その凝集を抑制する食品も重要である。

このように、重篤な病態を引き起こし、また時には死に至る血栓症の予防や治療に「食」は重要な働きを果たしている。本書は、血栓症の発症メカニズムの解説に始まり、全身的な病態である肥満、脂質代謝異常、がんなどにおける血栓症の発症にかかわる因子について詳しく述べられている。さらにはその予防や治療についての「食」の役割や食生活などについて深く言及されている。(目次参照)。

血栓症に携わる研究者、栄養士、臨床医などの他にも、病気の予防に興味がある一般の読者諸君にも参考になる書物である。また、新型コロナウイルス感染症と言われているCOVID-19の重篤化の原因の一つとして挙げられている血栓症を深く知り、「食」をその予防に役立てるためにも一読に値すると思われる。

(公財) ルイ・バストゥール医学研究センター理事長

京都府立医科大学 前学長

吉川 敏一